

## 第 16 駐車場等の床面積及び消防用設備等の取扱い

- 1 昇降機等の機械装置により車両を駐車させる構造の立体駐車場及び同方法で自転車等を駐輪させる構造の立体駐輪場の消防用設備の設置にあたっての床面積については、水平投影面積とする。

[参考]建築基準法令上における床面積の取扱い

吊り上げ式自動車車庫、立体式自動車車庫等で床として認識することが困難な形状の部分は 1 台につき 15 m<sup>2</sup>を床面積とする（昭和 50 年建設省告示第 644 号）。

- 2 開放式の工作物である機械式駐車場に設置する移動式消火設備の設置等については、次によること。

- (1) 原則として、駐車場前面の操作に支障のない位置に設置すること。
- (2) 各段の最遠の車両の直近に到達でき、有効に放射できるように各段に消火足場を設置すること。ただし、2 段式については、この限りでない。
- (3) 駐車場の各部分から 1 のホース接続口までの水平距離が 15m 以内（ハロゲン化物消火設備は 20m 以内）となるように設け、かつ、立体的にもホースが届くように設置すること。
- (4) 上下昇降式で、地下ピットを有する地下部分には、消火剤を有効に放射できるよう次により設置すること。
  - ア 地下 1 段部分は、地上から放射できるようノズル放射口等を設置すること。
  - イ 地下 2 段部分は、地上から消火薬剤が有効に到達できるよう放射口又は配管等により措置されていること。

- 3 機械式駐車場が次の（１）及び（２）に該当するときは、それぞれ別の対象物とみなすことができる。

- (1) 駐車場相互間の距離が同一敷地内の屋外の開放方式の工作物の場合は 3 m 以上、屋内の場合は 6 m 以上であること。ただし、駐車場間を耐火構造の壁で有効に区画した場合はこの限りでない。
- (2) 地下ピットを有するものにあつては、耐火構造の壁で有効に区画し別ピットであること。

- 4 自走式自動車車庫に係る消防用設備等について

- (1) 多段式においては、第 5 章第 6 泡消火設備別記「多段式の自動車車庫に係る消防用設備等の設置について」によるものとする。
- (2) 自動火災報知設備を設置する場合の設置方法
  - ア 設置個数については、省令第 23 条第 4 項第 1 号ロの「外部の気流が流通する場所」を除いた床面積に対する個数とする。
  - イ 設置場所については、「外部の気流が流通する場所」でも車両の駐車スペースを有効に警戒するように設置すること。